

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 105 号	2010年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	---	--

1. 活動報告（事務局 記）

―3月25日（木）会計監査 部坂、林両監査役、今井会長、原田、田村両副会長、事務局参加

―4月3日（土）平成22年度総会が無事終了しました。

創設11年目に向かつての会長のあいさつと土地の問題について説明があり 議事にはいり、21年度の活動報告や会計収支報告議決他22年度一般活動計画や新規事業の「おとなの自然観察」の企画説明と各部の指導責任者が決定されました。

4月3日現在会員52名中 出席者27名 議決委任者6名でした。

―4月12日（月）傷害保険打合せ（会長、原田副会長、事務局、坂野三井住友代理店）

重機使用特別保険 16名対象 と会員全員の450工数従来型保険入会4月19日より1年間

―4月17日（土）新規事業の第一回目【大人の自然観察会】食べられる野草でビオトープ周辺の野草探索、採取、主に天麩羅として食しました。

たくさん野草を採取して食材として使用可能かどうか？図鑑などで調べたり、地区によっては名前の違いなど協議しながら勉強できました。【大人の観察会】第一回は成功裏に観察会を終えました。参加者は26名と家族の児童6名の合計32名の参加となりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

―4月18日（日） 山口農高35年卒業生50周年行事 原田マ案内済

―4月24日（土） 上宇部小学校 三好先生 メダカ研究 原田マ案内

―5月中旬 フジとキラメキ子どもエコクラブ一行様

―5月下旬 福川こどもクラブ御一行

◎ 行事

―5月 2日（日）維持活動（特に草刈、溝掃除、とエコアップ）

―5月22日（土）観察会（野鳥）駐車場9時集合予定

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

落書きをおおめに見てほしいとの意見あり。これに対する事務局から回答を記入。
東屋のノートは落書き帳ではなく気づき帳であると記入しております。

4. 会員の声

「観察会（食べられる野草）」（三宅 弘 記）

毎年の楽しみの日、ビオトープ周辺での野草の種分けと食べられる山菜を天ぷらにして昼食に全員がいただく。私自身初めて参加した。まず午前9時すぎ全員集合、今井会長の挨拶に続き、原田事務局より本日の予定と準備の順序などその他注意事項等があった。参加者の子供さん5名ぐらい含め25～27名位だった。

原田副会長が参加者の子供さん5名ぐらいで竹の子堀り。本日天ぷら係り松本リーダー以下4名で

田村副会長そして事務局共に大わらわでした。そしてビオトープの周辺などに三三五五行かれた様だ。久々の上天気で気温は急上昇。

次に集められた野草等列記してみる。

ヤマザクラ、セリ、ワラビ、ハハコグサ、ウシハコベ、アザミ、セイヨウタンポポ、ノビル、タネツケバナ、カラスノエンドウ、ヨモギ、サルトリイバラ、ツバキの花、アサザ、タラの芽、セイタカアワダチソウ。シイタケ、ゼンマイ、ユキノシタなどは事務局の原田さんが用意せられていた。私はフジの花、コシアブラの芽を 探したがみつからなかった。楽しい昼食の宴会が始まり、3個のガス台にフライパンをかけ天ぷら揚げの大活躍、私も時々試食した。美味しいオムスビが重箱に入れられての差し入れ。そしてタケノコを焚き火で焼き、私など初めてであった。少し固い感じもしたけど堀りだちの物でオイシカッタ。加えてめずらしい二俣瀬地区で昔より飲用されたお茶「イシャシャギシバ」別名「イシャコ」と呼ばれる日常の健康茶が原田事務局にてふるまわれた。沸かす入れ物は見ただけでも懐かしい昔のヤカンだった。私個人としては大いに関心が有り、又折りをみて試飲したいものである。全員ほぼ満腹されたのか少し落ち着いた頃正午のサイレンが聞こえた。そして全員に今井会長より本日修了のご挨拶が有った。そしてあとかたづけに移り、楽しい一日がことごとく終わると少し疲れたな・・・と思った。本日の感想文を兼ねての記録として提出せよとのことで少し面食らったがザックバランに書きました。どうかその点お許しを乞う。以上

「ビオトープの天ぷら屋さん」

(内藤 武顕 記)

さわやかな陽気が戻った17日、新企画大人の観察隊がスタートした。ビオトープに向かって、てくてく歩いていると背後から軽トラが過ぎ、空き地に停車した。会員藤村さんの車だった。すばやく乗り込んだ。野草の天ぷら食は初体験、「採った野草は全部天ぷらにして食べるかね?」「その通り、途中山の中に駆け込むものもいたがね!」この脅し文句は効いた。

会場には関根会員がつくられた、きれいな野草サンプルが十数点展示されていた。さっそく写真の野草とネーミングを照合しながら手帳に記入する会員の姿が見受けられた。私は山に駆け込まないように好物の「わらび」1本に狙いを絞っていた。ミーティング後田村副会長、吉富匡会員、渡辺正会員さんたちと須賀河内川に沿って上流を歩いた。蕨とぜんまいを集中的に採った。採りつくしたのでビオトープには絶滅危惧種に特定されることになった。東屋に戻ってみると天ぷら屋さんは既にオープンしていた。盛況でした。芳しい香りに胃が鳴った。旬のタケノコの味は格別、ノビル、セリ・・・勿論わらびも旨かった。食欲が旺盛となった。むすびは3個簡単に食べた。4個目を狙ったが・・・朝の藤村会員さんとの会話を思い出した。途中山の中へ駆け込むのは食べ過ぎのせいだと思った。

学習会の秀逸のエピソードは事務局長のぜんまい談義「ぜんまいの雄、雌の色分けの分かる人はおらんかね!」大きいだけに迫力はあった。慌てて野草の本のページをめくった。

ゼンマイは花の咲かない植物と書いてあった。何となく楽しかった。東屋には6冊のガイドブックが置いてあり、皆はそれぞれ先生になり生徒になっていた。私は年齢のせいか薬用効果欄のみ注視した。その間女性のみなさんは天ぷらづくりに専念。16日の夜から17日早朝にかけての心遣いが見事な味付けとなっていた。会員の心が癒され胃袋も癒された頃、しばらく天ぷら料理に箸をつけられました。天ぷら屋さんの(のれん)に名前を付けたいと思った。浮かんだのは(なでしこ)でした。広辞苑によると一日本女性の清楚な美しさを讃える言葉・・・でした。ごちそうさまでした。以上

まとめて一句

“草の芽や 地球丸ごと 天ぷらす”

5. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（23）アサヒナカワトンボ（カワトンボ科、カワトンボ族）

（旧名：ニシカワトンボ）

Mnais pruinosa Selys

ニホンカワトンボにそっくりなカワトンボで発生時期も生息場所も同じようなところにおり、この2種は見分けの難しいカワトンボです。やはり平地や山間の溪流に生息しており、どちらかといえば少し薄暗く川幅の狭い細流部を好むようです。

日本特産種でイトトンボを大きくしたような形をしており、体長はおよそ6センチほどです。ニホンカワトンボと同じように橙色をした翅と、透明な翅をした個体があります。

山口県の西部では4月上旬より羽化が始まり5月～6月に最盛期を迎え、8月には姿を消します。羽化したトンボは生まれた水辺をあまり離れることなく生活するようで、山や丘を越えて遠くまで生息域を広げることはなさそうです。それゆえ、環境の保全が大切で、一度環境破壊が起きると、復活が困難になるかもしれません。 （下）溪流2景



ヤゴ上陸



アサヒナカワトンボの羽化



透明翅型♂



橙色翅型♂

6. 会よりの連絡事項 （事務局より）

1、カスミサンショウウオ

我が家の宅地続きの谷あいの、カスミサンショウウオの産卵が今年は富に多く雨が降るたびに水で流れて移動しているので、ひと房観察箱に入れ（人間の手をかけてはいけないとの意見もあるが）観察を始めました。ほとんどが無事ふ化し小さなウーパールーパー見たいな幼虫が20数匹動き回っています。毎朝水を替え、ミジンコのえさを与えて観察しています。もう少し大きくなったら元の場所近くに返しますが、永遠にこの地で生き延びてほしいと思っています。

2、新会員のお知らせ

以前より「里山自然観察隊」に参加されておられました、工藤慎一、工藤裕子さんが会員となられ活動に参加されることになりました皆様よろしくお願ひします。

7. 特別寄稿 （藤井 義晴 記）

会長、副会長、原田事務局長、そして会員の皆さん、長い間お世話になりました。

二俣瀬ビオトープとの関わりは、10年前、宇部に転勤になったときに始まります。そこには、ビオトープを創るという仕事が待っていました。

ビオトープ、どっかで聞いたことはあるけれど、いったいどんなものなのか、ほとんどなにもわからない状態でした。

どこに創るのか、どうやって創るのか、何もなくて、ただ、「休耕田に創ること」これだけでした。場所は、二俣瀬に決まり、そして、どうやって創るのが検討されました。

その当時、市民の力で、街を創るという動きが各地で広まっていた。行政は、種を提供し、市民がその種を育てていく、育てていく過程で口ははさまない、でも、できる限りの協力をしていく。そういった活動が二俣瀬でできるのではないかということになり、会員の募集が始まり、会が創設されました。ビオトープをどういう姿にするか、熱のこもった話し合い、そして、制作。毎週、毎週、そのエネルギーのすごさに感激しました。

ビオトープの周りは里山です。会の名称にもなっています。そこには、たくさんの生き物が暮らしています。トンボにメダカに、鳥たちなどなど、ペアのカワセミをここで初めてみました。ビオトープを荒らす、困ったイノシシたちもいます。

ビオトープは、「全くの自然でないといけない」という意見もあるようです。でも、そうでしょうか、「生き物が住んでいる場所はすべて、ビオトープ」だと私は思っています。固定的な観念で、ビオトープを規定してしまう必要はないと思っています。それが、ゴミ捨て場であっても、そこにしか住めない生き物もいる、その生き物にとっては、そこがビオトープだと思います。ただ、人の生命、生活に危害を及ぼす場合は、どうしても排除されていくこととなりますが。

「里山ビオトープ二俣瀬」は、里山をイメージしました。日本人は、善し悪しは別として、自然の中で、自然とけんかすることなく、暮らしてきたと思っています。鎮守の森として、自然を残し、いろんな神様を創ってきました。現代は、なかなか、そのような生活が難しくなっています。だからこそ、そういった場所を少しでも、残していくことが大切だと思います。

やめていくものが、このようなことをいう資格はないのかもしれませんが、皆様方の今後の活動が、二俣瀬ビオトープをだけでなく、あちらこちらに広まると嬉しいです。

8. 編集後記

今月は、雨がよく降ります。この調子だと、梅雨入り前の水不足は、心配なさそうです。エコアップ担当の私としては、気兼ねなく池や湿地への水を確保できそうなので、この雨は歓迎なのですが、困ったことがあります。落ち葉による水路のつまりです。

雨のせいか、今年は水路を流れる落ち葉が多いようです。池への流入口は、数日で落ち葉がたまります。水路の底には落ち葉が沈み、水車流入口に至る間には、数カ所でかたまりがダムを造っています。暗渠の中も、落ち葉が詰まっていることでしょう。たどりつく水が少ないのか、水車も時々止まり、逆回転をしています。水があふれるため、水路の流量を増やすことも出来ません。

今回の参集日には、水路の掃除をすることになるでしょう。しかし、一度きりの掃除では、水路のつまりは解消できそうにはありません。水は、ビオトープにとって血液のようなもの、水路は動脈です。皆さんも、ビオトープに来られた際は、水路の落ち葉を少しずつでも除いてください。去年も同じようなことを言いましたが。

（ 前田 歳朗 記 ）

今年度は初めて自然観察隊のいない会員の自然観察会、食べられる野草。会員は静かに野草を求めて散って行き、収穫物を。誰がリーダーでもなく静かに進んでゆく。サルトリイバラ、いやサンキライではと名前論争？に本をめくりサルトリイバラ別名サンキライ（山帰来）と確認。天ぷらにしたユキノシタ、きれいな色 くせもなく美味しくたべられた。皮のついたまま焼いたタケノコ、甘みがありとても美味しい初体験。サカキ（榊）に非ずヒサカキ（非榊）（ツバキ科）と言われるイシャシャギ。原田さん持参の年代を感じさせる風格あるヤカンで囲炉裏風に吊り下げられ煎じられたお茶もおいしかった。淡々と穏やかにゆっくり楽しめた大 人の観察会でした。

（ 松本 フデ子 記 ）